

4. 課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

＜生命科学部分子生命化学学科＞（認定課程：高一種免（農業））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	一社会人として常識的な考えや活動が遂行できる基礎を構築するとともに、自分が教員として社会にどのように還元したいかを考えさせ、将来の目標を明確にする。さらに、教科科目で化学と農業の歴史上の相互作用を認識し、農業現場を実体験する事により知識・技術を身に着ける。入学ガイダンス時に教職課程関連資料配布及び説明、4月教職説明会にて「教職課程履修案内」を配布し、教職課程履修に係る意欲向上を目指す。
	後期	教職課程科目を配置し、教員としての基盤を形成させつつ、「教育」に対して個人の考えでなく、理論の積み重ねと行動力により物事を進める現実を十分に理解させるとともに、該当中心年齢だけでなく、幅広い年齢層、性格、行動の理解、補助できる能力を身に着ける。さらに、基礎的な科目を中心とした幅広い素養を身に付け、中等教育から高度な大学レベルの知識を身に付けるための基本的能力を涵養する。また、基礎的な実験科目を通じた実験技術を身に付ける。履修カルテ配付による指導を実施し、教育者に求められる資質や能力についての確認および理解を目指す。
2年次	前期	1年次に続き、教育論をより高度に学び教育者としての理解を深める。さらに、1年後期に開講した科学基礎力を農業を含む専門科目への展開を始める。各科目に於いて農学系化学としての立場からの言及をとおして1年次より、具体的にかつ広範な知識と方法論を持ち合せ生体関連の事象を伝統的な科学の範疇において思考することを可能にし、厳密な学としての科学を具体例を持って体现することで、高等教育の性格を理解させる。現職、元教員による講義、講演会、学校ボランティアに参加することで、教育現場の現状に関する理解を目指す。
	後期	学生に対する具体的な対応能力の向上を目的として各種教育指導論を配置するとともに、教科科目として実験科目等では農業との関わりの深い生体資料の化学分析を行う。1つの事象を数式、化学構造式で同時に表現可能であり、かつ学んだ科学の体系の中でどのような位置をしめるかを知ることで、課題解決能力を養成し、農業の社会的な意義や役割について理解する。
3年次	前期	教育専門性を高めるとともに、多様な学生に対して人としての考えや行動を伝える能力向上を目指す。さらに、教科科目として、2年次より専門性および応用性が高い科目を配置し、具体的目的への展開力を養成し、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な農業の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を身に付けさせる指導法を育成する。教育実習指導の充実により、教育指導案の作成等、具体的な授業運営、校務分掌についての理解を目指す。
	後期	農業に関する専門的知識・技術の修得に加え、専門高校における職業指導の役割と指導法を学び、専門分野を確立するためのスキルと知識を修得させる。さらに、作物の生産から加工までを広く理解、習得させる。教育実習などを見据えて、農業高校教員の講義や講演会、各種ガイダンスを用意し、農業におけるスペシャリストとしての専門性の基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせる指導法を育成する。
4年次	前期	教育実習に参加し、教職現場を体験するとともに教員として必要な資質を習得する。適宜、現場教員と教職課程教員や事務員による的確なサポートを行い、学生にフィードバックすることで、不足している知識や技能等を補う。さらに、「卒業論文」のための実験を開始し、その過程で理解力、調査能力、計画能力、実験能力（実行力）、考察力など各種能力の向上に努める。
	後期	4年次前期に続き卒論研究を遂行し、最先端の科学に関する意識を涵養する。卒業論文の作成を通じて科学の営みを体现し、科学的な表現方法、プレゼンテーションの能力を身に付ける。農業に関する課題を見付け、自分自身や社会のものとして解決する態度と身に付けた知識と技術を活用する指導法の修得を目指す。